



Soto-Zen Jyousenji

# 浄泉寺報

第 9 号

栃木黒羽大雄寺山門前で 3号車（超林寺様と一緒に）

檀信徒の皆様には輝かしい新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

また、喪中にて新年を迎えられましたご家庭には、本年がよい年となりますよう心からお祈り申し上げます。

更に檀信徒の皆様には、日頃より浄泉寺の護持等に格別のご高配を賜っておりますこと、年頭にあたり改めて厚く御礼申し上げます。

昨年を振り返りますと、八月に行われましたロンドン五輪では日本選手の活躍に一喜一憂し、多くの希望と勇気と誇りをいただきました。しかしながら国内の経済環境の厳しさは相変わらずであり、その上震災の復興も十分とは言えぬ進捗状況、更に福島原発事故の問題や原発全体に対する不安などに終始した年でもありました。また十一月には衆議院が解散され、年末に総選挙が行われるなど政局も非常に不安定な年でありました。

そのような中、外交問題では、沖縄へのオスプレイの配備問題や韓国との竹島問題、更

に中国との尖閣諸島の領土問題も顕在化しました。いずれにしても内外共に混沌の年であったような気がいたします。新たな政府のもと、しっかりとした国の運営を期待したいものです。

行事の方は、春の花まつり、お盆の万燈会、秋の観月会と例年通り実施いたしました。また教区団参として栃木県那須大雄寺と湯西川温泉の旅を実施しました。（写真上、詳細は次頁）

更に講座等は、御詠歌、坐禅会、写経会を例年通り開きました。特に本年は御詠歌講では、五月の幕張メッセでの全国奉詠大会への参加や十一月の木更津アカデミアホールでの千葉県大会への参加など大きな行事がありました。（詳細は次頁）

これらの講座は、檀信徒の皆様と寺のコミュニケーションの場でもあり、是非多くの方々に気軽にご参加いただけますようお願いしております。

おわりに、ご家族様の皆様のご健勝を心からお祈り申し上げます。

住 職 合 掌

## 当面の行事等

1月 1日 檀信徒初詣

午前9時から午後4時まで

1月 8日～9日

浄泉寺本寺 大雄院（日立市）開山忌

1月13日 総代・世話人会 午前12時00分

2月15日 涅槃会（お釈迦様の忌日法会）

3月17日～23日 春彼岸会

4月7日 降誕会（お釈迦様の誕生日・花祭り）

午後2時 本堂 イベント実施（後日お知らせ）

※ お子様方をつれて、甘茶をかけにいただきます。夕方までお参りができます。お子様にはお菓子などを用意します。



# 栃木那須黒羽大雄寺参拝と湯西川温泉の旅

栃木県 那須黒羽の浄泉寺ゆかりの古刹大雄寺参拝と平家の落人部落として有名な湯西川温泉の一泊二日の旅に行つて参りました。

今回の教区団参は、バス三台で約百名の参加者でした。

一日目は、出発したころは良いお天気でしたが高速道路を降り那須に入ると雨が降り始め、昼食を終えて黒羽の大雄寺に着くころには本格的な雨になってしまいました。

この大雄寺は、とても浄泉寺とは縁のある寺で、浄泉寺の寺



大雄寺本堂



大雄寺本堂内で教区ご寺院と

を維持することはとても大変だという事でした。

山門から山を下り再びバスに乗つて一路湯西川温泉に向いました。秋の山奥の夕暮れは早く湯西川温泉に到着したころには、すっかり暗くなっておりました。急いで温泉につかり夕食会場へ。教区長老師の挨拶の後、浄泉寺檀信徒総代の吉岡氏も挨拶をし、楽しい宴が始まりました。特に参加者の一番多かった浄泉寺には芸達者な方が沢山おられ、皆さん十二分に楽しんだようでした。

二日目は、秋晴れのお天気です。前日は天候も悪く、湯西川温泉の景色も分かりませんでした。

たが、朝から紅葉を大いに楽しみました。

その後、大谷観音をお参りし、益子で昼食をとり、笠森観音を訪ね、楽しい旅を終わりました。

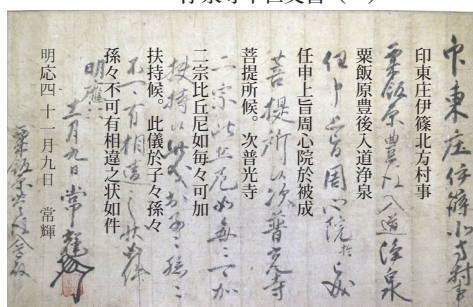
## シリーズ浄泉寺の文化財

当時この地方の主権者で佐倉(本佐倉)城主であった千葉氏より、浄泉寺の開基である栗飯原氏に与えられた所領の安堵状(土地の所有権を公に認めた文書)で二通あります。この中世文書により浄泉寺が中世以来の由緒を持つ寺院であることが如実に証明されます。文書(一)の「常輝」は千葉家第二十代千葉孝胤<sup>のりたね</sup>。「栗飯原豊後入道胤光」

は浄泉寺の創立者胤光(千葉氏の有力な一族・鎌倉大草紙)の別号である。(二)の「輪覚」は第二十一代千葉介勝胤<sup>かつたね</sup>。「右衛門三郎」は、胤光の子、胤信の別号である。また、「周心院」とは浄泉寺の創建時の名前であります。この二通の文書にある普光寺、下金山、松崎郷神宮寺領、広倉寺領等は栗飯原氏の所領として安堵を受けたわけでありますが現在ではそれを確認することは出来ません。東国の雄でありながら、千葉氏発給の文書の正本(実物)が残されているものが数が少なく、とても貴重なものと言われております。

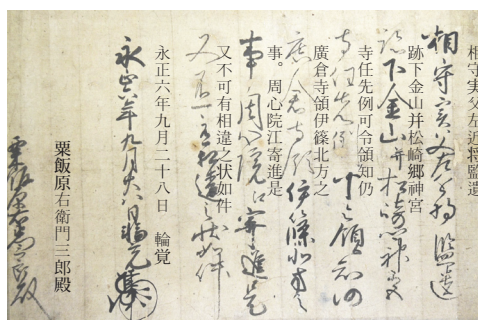
(酒々井町指定文化財)

## 浄泉寺中世文書(一)



栗飯原豊後入道胤光

## 浄泉寺中世文書(二)



栗飯原右衛門三郎殿



## 十三夜の日、観月会



十月  
二十七日  
の夜天空  
は高く、  
たなびく  
幾つかの  
雲を照ら  
しながら  
美しい  
十三夜の  
月が昇り

ました。

恒例の浄泉寺観月会が始まりました。  
です。曹洞宗開祖道元禪師を偲び、本堂に「道元禪師観月の図」を掲げ、宗祖の供養と名月を見ながら素敵な音楽を楽しもうというものです。

今年は、ヴァイオリニストの太田恵資氏をお招きして行われました。ステージ前にはお檀家さんが観月会に相応しい花を



飾ってくださいました。

会場は、ほぼ予約席で埋まり、成田で行われた弦まつりの流れでお出でいただいた方もいらっしやいました。

太田氏のヴァイオリンは、即興演奏を得意とし、この日もアラブなど中東の民族音楽風な演奏で月明かりの中の砂漠やそれを行くラクダの群れなどを連想させるような、とても味わいのある演奏でした。

特に演奏に時折加えられる声も楽器のような不思議な音色で曲に厚みを持たせておりました。

また、ヴァイオリンもアコースティックなものだけでなく、エレクトリック・ヴァイオリンも使い、更に様々なエフェク



ターなども使って、雰囲気づくりをしておりました。始どがアドリブ演奏です

ので、正に「一期一会」の浄泉寺でだけの音色で楽しませていただきました。

最後に浄泉寺ではおなじみの箏奏者海宝幸子さんのコラボレーションを披露され、とても素敵な演奏会となりました。

## 送り盆の日 万燈会



三味線奏者 佐藤通芳氏

今年も送り盆の夜（八月十五日）に万燈会の行事を行いました。夕方から境内や墓所に青竹に入れた蠟燭を三〇〇灯ほどともし、多くの檀信徒の皆様に加と特に浄泉寺にお墓をお持ちの方々がご先祖様を送りながら、帰りに本堂に上がり盂蘭盆会の法要に参加されました。終了後、今年も津軽三味線をお楽しみいただきました。

津軽三

味線は、

酒々井町

出身の佐

藤通芳さ

んで、と

ても力強

い三味線

を聴かせ

ていただき、

また所どころに津

軽三味線の蘊蓄なども交えた軽

妙なおしゃべりも上手で楽しい

演奏会となりました。何と言っ

ても、見せ場（聴かせどころ）

は、浄泉寺の数々のイベントを

サポートしてくださっている箏

奏者で道芳さんの母でもある海

宝幸子さんとのコラボで、勿論

息の合った演奏は当然と言えば

当然ですが、楽しそうに、また

お互いに気遣いながら演奏して

いるようですがとても微笑ましく

も感じました。

機会を見てまたお招きしたい

と思っております。

送り盆の夜、この美しく力強

い音色はきつと仏様の元に戻っ

ていくご先祖様たちの良いお土

産になったような気がいたしま

した。



## 梅花流全国大会に参加

五月二十九日と三十日の二日間、幕張メッセで梅花流ご詠歌の創立六十周年記念奉賛大会が開かれ、二十九日に浄泉寺講も参加をしました。

当日は大本山永平寺 福山諦法不老閣下、大本山總持寺 江川辰三紫雲臺下をお迎えし、記念法要及び記念奉詠大会が行われ全国から大勢の梅花講の皆様が参加されました。

午後のアトラクションでは、菩提寺に曹洞宗の寺を持ち、震災で大きな被害のあった岩手県大船渡市出身の新沼謙治さんの熱唱を楽しみました。



全国大会に参加した浄泉寺梅花講の皆さん



## 梅花流千葉県詠賞大会に参加

昨年の十一月十五日木更津市のアカデミアホールで隔年に実施されている梅花流ご詠歌の千葉県大会が開催されました。当浄泉寺講も、これに参加、ご詠歌をお唱えいたしました。曲目は「同行御和讃」です。最近講員さんも増え、講師も養昌寺の方丈様にお願ひし、一生懸命この日のために練習してきました。舞台での奉詠時間は五分程度ですが、人前でお唱えするのは大変緊張するものです。終ってほっとして写真を撮ってもらいました。(右)アトラクションもあり、充実した楽しい一日でした。



舞台上でお唱えする浄泉寺講

## 墓地利用者の皆様へ

墓苑利用者の皆様に幾つかお願い申し上げます。最近特に墓地内においてカラスによるいたづらが目につきます。ごみ入れを荒らすことはもとより、各墓所の花立から生花を抜き取って、あたりに散乱させるのが一番困ります。せっかくの供養の花が無残に散らかっていると悲しくなります。また最近常花をお供えされている方もありますが、常花は散乱しますと、どこのお墓のものか分かりづらく、そのままゴミになってしまうことがあります。常花をお供えする場合は、所有が分かるようににされるか、簡単に抜けないような工夫をお願いします。また、供えられたペットボトルや缶類もいたずらしているようです。できましたら、お参り後でできるだけお下げくださるようお願いいたします。更に掃除用具もいたずらの対象になっており、これも散乱が目につきます。ご面倒でもなるべくお掃除の都度お持ちいただきますよう重ねてお願いいたします。 住職

## 本堂仏具の奉納受付

浄泉寺本堂内の仏具の整備について、篤志の方をお待ちしております。

更新希望の仏具は、本堂内陣内の灯籠一對の台座でありま。現在のものは塗りがはがれており修復も考えましたが、他の仏具と併せて樺製で新調したいと思っております。

追加希望の仏具は、卒塔婆立です。これも一法要の卒塔婆の数が多くなっており、樺製のものを追加したいと希望しております。

これらにご協力いただけます篤志の方の、お申し出をお待ちしております。ご寄附いただきました場合は、当該仏具に供養者のお名前等を刻み長く什物として使わせて頂くと共に、特別供養一座を厳修いたします。



灯籠台座  
一對約七十万円



卒塔婆立  
約三十万円

## 仏教豆知識

### 仏壇とお供え

仏壇は、私たち仏教徒が、信仰の中心となる御仏(本尊様・曹洞宗は釈迦牟尼仏)と、父母・祖先のお位牌をお祀りし、礼拝するための、もともと神聖な場所です。

何よりお釈迦様を、信仰のよりどころとして、おまつりするわけですから、仏壇の中央に、み仏は常に在ますという思いをもつて、合掌礼拝を欠かさないようにしましょう。別に華美にする必要はありませんが、質素であつても、掃除をきちんとして、お花も活き活きしたものを立てて、荘厳すべきでしょう。

お花は向かって左、灯明は右にお供えし、中央に香炉です。花の表は、仏様の方へではなく、供える人の方へ向けますが、これは供える人の気持ちを表しているのです。

また誰もが自分の中に持っている仏心に花を捧げるのです。りっぱな仏壇があつても、お花は枯れ、香炉はよごれ、仏飯

もお水もないというお家がありますが、枯れっぱなしの花は、その家の人の気持ちがそのまま表れている、といえます。

「信は莊嚴から」といいます。

形は心のあらわれです。お供えは、供える人、見る人の気持ちを、すがすがしくするので



## やすらぎは ご先祖の供養から

一周忌 平成二十四年  
三回忌 平成二十三年  
七回忌 平成十九年  
十三回忌 平成十三年  
十七回忌 平成九年  
二十三回忌 平成三年  
二十五回忌 平成元年  
二十七回忌 昭和六十二年  
三十三回忌 昭和五十六年